北海商科大学　講義概要（シラバス）

2026年度

科目名	経済理論B	科目コード	1160	単位数	2
担当者名	深澤　史樹	開講セメスター	第6セメスター	開講年次	3年次
授業の方法	講義	到達目標	B,F	実務経験	無
ナンバリング	DEc604	※DP（ディプロマポリシー）と到達目標の関連性については、カリキュラムマップ参照			

授業のねらい

私たちが当然のように享受している「豊かな食生活」について、実は砂上の楼閣のようにに脆いものであるということは、多くの消費者が認識していない。理由は食にまつわる情報が消費者に見えにくい状態にあるからです。本講義では、食料経済学の視点から、情報の偏在を解き明かし、情報共有することで食にまつわる不安を解消しようと知的考察を重ねることがねらいです。また、地域経済と食資源の親和性の高さに着目して、食資源を利用した地域経済のマネジメントにつてもいっしょに考えていきたい。

到達目標

・消費者視点からの食料経済学（フードシステム）からみた食料問題が理解できる。
・食料経済に関連した様々な統計データ（数値データ）からデータを読み解くことができるようになる。
・食資源と地域経済の関係を理解し、地域経済の活性化へ導くための考察力を身につけるようになる。

授業内容

1週目 ガイダンスおよび食料経済学で何を学ぶか：食卓からさかのぼってそのフードシステムのしくみについて考える。
2週目 食生活の変遷と特徴について：食生活変化の背景や現代食生活の特徴と問題点などを明らかにする。また、食の国際比較を通じて日本食文化の特徴などについて考える。
3週目 成熟期にきた食の需給：我が国における食料の需要と供給について考えるとともに、日本人の食品購買行動の特徴について考える。
4週目 農畜水産物の生産について：フードシステムの川上である農業について、その生産環境の変化とSDGsについて考える。
5週目 食品企業の役割と食品製造業の展開について：フードシステムにおける食品製造業の位置づけや国民経済のなかでの役割、また原料調達とフードバリューチェーン構築のための展開について考える。
6週目 食品流通とマーケティング：卸売市場流通を中心とした生鮮食品の流通経路や加工食品の流通経路、また食品流通業における構造変化について考える。
7週目 外食・中食産業の展開：外食産業の経営戦略の特徴や中食産業の多様性、さらにそれらの食材調達（農産物の需要者としての食品産業）について考える。
8週目 貿易自由化の進展と食料・食品の輸出入について：グローバル化と食料貿易の転換点について考える。世界規模での食料の需要増大と食料貿易の将来について考える。
9週目 世界の食料問題：地球規模での食料需要の増大や成長の限界が懸念される食料供給について考える。
10週目 日本の食料政策：食料政策の課題について考える。具体的には昨今話題となっている米政策を事例として主食政策を考える。また食料安全保障という観点で食料自給の確保について考える。
11週目 食品の安全政策と消費者対応：食料に求められる基本的な性格として、安定供給と安全性について考える。安全な食料共有と安心な食生活のためのフードシステムの構築について考える。
12週目 日本の食料問題を考える：基本は風土に見合った食生活であり、真の豊かさを求めて、21世紀の食生活を展望する。
13週目 食文化と観光地域づくり①：地域経済とりわけ地方都市部（田舎）における食資源と地域産業・経済とのかかわりについて考える。具体的にはフードツーリズムの誕生と日本におけるフードツーリズムの発展について考える。
14週目 食文化と観光地域づくり②：欧米で重視しているガストロノミーツーリズムについて考える。さらに、日本におけるガストロノミー・マネジメントを事例にガストロノミーツーリズムとまちづくり（地域経済）について考える。
15週目 これまでのまとめと期末試験
16週目 課題や期末試験のフィードバックを実施します。ただし、やむを得ず15週目までの授業内容を実施できなかった場合は、補講授業を行います。

準備学修（予習・復習）の具体的な内容及びそれに必要な時間

・復習は、講義の最後にリアクションペーパーを提出する。さらに、当日の講義を収録したオンデマンド動画教材をmanabaで配信いたします。（所要時間：30分）
・予習は、前の週にあらかじめ提示した課題について調べたうえで講義に臨んでいただきます。（所要時間：90分）

成績評価の方法・基準

・成績評価は、課題40点（1課題当たり2～3点の加点）、期末試験60点の合計100点満点とします。

履修上の留意点

・出欠確認は、responを使用して行います。
・成績評価は、全15週のうち、10週以上授業に出席した学生を対象とします。

課題に対するフィードバックの方法

・前の週に課した課題については、次の週の講義の中で解説する。
・講義は毎回録画し、オンデマンドで履修学生が復習などで利活用できるように自由に視聴可能とします。

テキスト

特になし

参考書

・『農業と経済』編集委員会【編】『特集：地域圏フードシステム　フランスを手がかりに、都市の食を構築しなおす』（英明企画編集）2021年￥1,870
・時子山ひろみほか著『フードシステムの経済学（第6版）』（医歯薬出版株式会社）2020年￥2,970

更新日付

2026/02/05 03:37